

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 03	福山市立南小学校
最終更新日		2025年（令和7年）2月14日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
・ 多くの児童生徒が、授業や特別活動の各場面で主体的な意思決定ができ、「学校が楽しい」「学びが面白い」と感じている。	・ 「自ら考える、決める、選ぶ」を実践していると肯定的に捉える児童生徒が増加している。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 ・ 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
・ 教師がいきいきと働いている様子が児童生徒に好影響を与えている。	・ 多くの児童生徒が「学校が楽しい」「学びが面白い」と感じている。	中学校区として統一した取組等	○ 学習指導要領に立ち返り、言葉と数にこだわった授業づくりを目指した協議を継続する ○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。
・ 児童生徒の実態からよりよい姿にするためにも評価指標を検討してほしい。	・ 言葉の理解や表現すること、数の理解に課題がある。		

III 自 校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「課題を見つける力」【自己決定】 「対話をする力」【コミュニケーション】 「認め合う態度」【思いやり】
自ら学び考動する子どもを育てる。 子どもとともに学びを創る。	めざす子ども像	〈課〉 身の回りの様々な出来事を自分のこととしてとらえ、自分の課題を見つけ、解決に向けて粘り強く取り組むことができる。 〈コ〉 自分の考えをもち、表現・交流し合う中で、互いの思考をつなげ、広げて深め、よりよい解を創り出すことができる。 〈思〉 自他の良さを認め合い、目標に向かって協力して活動できる。
学校教育目標 自ら学ぶ子 「よく考える子・思いやりのある子・たくましい子」		
現状	研究	『ともに創る授業』 思考の価値の広がりを通して一人一人が大切にされる授業
【児童】 授業を中心に、様々な教育活動において、自ら考え、根拠を持って選択・判断しながら主体的に取り組もうとする児童が増えてきている。また、困難な課題に対して、周りの人に質問しながら、最後までやり遂げようとする姿も見られてきている。 一方で、互いの思いや意見を聴き合い、折り合いをつけながら選択したり決定したりすることが難しい。話合いを進める中で「何のために」という目的に還り、互いに高まっていこうとする意識を醸成していく必要がある。	めざす授業の姿	○既習を活用したり、経験や既習との違い・スレから疑問をもったりしながら理解を深める。 ○相互に影響し合う関係を大切にした対話・交流活動を展開し、ともに学び合う。 ○自分の考えや発言・つぶやきが学びの深化につながったことを自覚し、自信を大きくする。
【教職員】 授業を始めとした教育活動（学校・児童会行事等）において、児童の思いや考えを活かしながら企画・運営する意識が高まってきている。	教職員	○教師は、児童の「やってみたい・面白そう」を喚起する「単元を通した課題」を工夫・設定し、児童とともに学習計画を立てる。 ○教師は、単元や教科の本質に迫る「児童の発言・つぶやき・思考・誤答・勘違い」などを見出し、そこから学びを深化させることにチャレンジする。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的・対 話的に学 ぶ力を高 める。		新 規	一人一人の 考えの意 味や価値 を捉え、活 かす授業 を創る。	① 学習指導要領に立ち 返りながら子ども主 語・教材主語を意識し た教材研究を行う。	① 児童アンケート「自分の考 えを伝えることができる」と答 える児童を75%以上	① 児童アンケート「自分の 考えを伝えることがで きる」 →72.3% □① 学習指導要領を用い、目 標に立ち返りながらの 教材研究を意識しなが ら行った。	3	3	① 教材研究で、自分の 考えを表現する場の 設定を意識した単元 づくりを行う。	① 児童アンケート「自分の 考えを伝えることがで きる」 →70% □① 総合的な学習の時間を 中心に、表現活動を取り 入れた授業づくりを行 った。	3	3	3	① 総合的な学習の時間の全 体計画の見直しを行い、 探求的な課題の解決を通 して育成する資質・能力 を再整理する。また、目 指す児童の姿にあった表 現活動の在り方を明確に して評価していく。
					② 教材研究や日々の授 業実践を交流する場 を設定して振り返り、 授業改善につなげる。	② 教材研究や実践の交流を月に 2回以上行う。	□② 学校での取組(PDCA) を意識した学年間や全 体での教材研究や授業 実践後の交流を行った。			② 目指す児童の姿を考 える、教材研究の時 間にする。	□② 目指す児童の姿になる ような授業展開を協議 する教材研究の時間と なった。				② 目指す児童の姿を意識し た授業づくりに取り組め るように、学年間で話し 合い、単元で身に付ける 力を明確にする。また、 他教員と児童の姿を意識 した授業づくりについて 協議する時間を確保す る。
3	思いやりの 心を持ち、 楽しいと思 える学校を 創る。		見 直 し	相手意識を もち、主体 的・対話的 に考動する 児童を育成 する。	① 自他共に認め合える 関係をつくるために、 縦割り班活動を中心 にした場面で自分の 役割を意識して活動 する。	① 児童アンケート「縦割 り班活動の中で、自分の 役割を意識して活動す ることができる」と答 える児童を80%以上	① 児童アンケート「縦割 り班活動の中で、自分の 役割を意識して活動す ることができる」 →89.4% □① 縦割りの掃除を中心に、そ れぞれの学年が自分の 役割を意識して取り組 む姿が見られた。	3	3	① 現在は縦割りの掃除が中 心になっているため、縦 割りの班で活動する取組 を増やして、より児童が 自分の役割を意識した 活動ができるようにす る。	① 児童アンケート「縦割 り班活動の中で、自分の 役割を意識して活動す ることができる」 →88.9% □① ◎中間評価時と同じよ うに、自分の役割を意識 して取り組む姿が見ら れた。特に、5・6年生を 中心に、下級生に掃除を 教えるなど意識的に取 り組む姿が見られた。	3	4	4	① ・来年度も継続して縦 割りの掃除を進める。そ の中で、キャリアログ を用いて各学年に応 じた役割を明確にし、 主体的に取り組める ように工夫してい く。 ・掃除以外の縦割りの班 活動を充実させて、よ り役割を意識できる 場面を増やす。
					② 縦割りの班活動を中心 に、担当教諭が児童と ともに活動を振り返り、 次の活動につなげ られるようにする。	② 教職員アンケート「縦割 り班活動を通して、児童 とともに振り返りを行 い、次への活動に生か すことができたと」答 える教職員を85%以上	② 教職員アンケート「縦割 り班活動を通して、児童 とともに振り返りを行 い、次への活動に生か すことができたと」 →93.2% □② 縦割りの掃除を中心に、教 職員にも指導の視点を 示しながら取り組みを 進めることができた。			② 他の縦割りの活動を行う 際にも、教職員に指導 の視点を示しながら行 うようにする。	② 教職員アンケート「縦割 り班活動を通して、児童 とともに振り返りを行 い、次への活動に生か すことができたと」 →100% □② 各掃除場所の指導の視 点をもとに、児童に役 割を考えさせながら、取 組みを進めることがで きた。				② ・教職員がどの学年の 児童に対しても同じ ように指導ができる ように、評価の視点を 明確にして共有する。 ・職員研修の中で、自 己指導力の育成に関 する内容をより充実さ せる。

1	基本的な生活習慣を身に付け、体力づくりに励む。	新規	主体的に健康な体づくりに取り組むことができる。	① 体力の向上に加え、自他ともに心の成長に向けた授業づくりのための研修を学期に1回以上行う。 ② 児童が運動に興味・関心をもてる体育活動を実施する。	① 児童アンケート「体育が楽しい」と答える児童を85%以上 ② 児童アンケート「体を動かすことが好き」と答える児童を85%以上	① 児童アンケート「体育が楽しい」 →95.1% ① 児童アンケート「体を動かすことが好き」 →89.4% □② 2ヵ月に1回の体育リサイタルの実施 □② 学期1回の長縄大会の実施	3	4	① 外語指導者を依頼し、体育科授業において十分な運動時間の確保と、自己評価のさらなる充実を目指す。 ② 体育リサイタルへの立候補や長縄大会での発表など、児童の意欲が高まっており、上半期の取組を継続して行う。	① 児童アンケート「体育が楽しい」 →92.8% ① 児童アンケート「体を動かすことが好き」 → 92% ①体育科研修の実施 →2回 □② 月1回の体育リサイタルの実施(参加人数63名) □② 学級対抗ドッジボール大会の実施	3	4	4	① ・定期的に実技研修・理論研修を継続し、教員自身が運動や体育を楽しみと感じられる場面や運動量を確保した授業づくりの具体を学ぶ。 ・基本的生活習慣の定着に向け、「体育科の授業づくり」から「健康教育の充実」へと視点を広げる。 ② ・児童が興味をもつ体育活動を継続する。 ・「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」にも重点を置いた授業へと改善する。(「楽しい運動」の質の向上)
3	教育公務員としての自覚を持ち、笑顔と元気で子ども達と向き合える教職員になる。	継続	〇地域、保護者が「安心できる」と言える学校を創る。	① 児童の学びの足跡を保護者に見てもらったり、児童の学びの姿を様々な形で発信したりする。 ② 7時間45分を意識した手法や仕事内容の見直しを行い、業務改善に努める。	① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わせることができる」を85%以上にする。 ① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」を80%以上 ② 時間外勤務時間45hを超える教職員を0にする。	① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わせることができる」 →84.6% ① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」 →85.3% ▲① 保護者アンケートへの回答率 →54.9% ② 時間外勤務時間45hを超える教職員 →5人	3	3	① 保護者アンケートの回答率を高めるために、メール配信・HP・学校だより・学年通信等を活用して保護者への周知を徹底する。 ② 毎日の入退校記録を継続し、時間を意識した業務遂行を推進する。	① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わせることができる」 →93.4% ① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」 →86.8% ◎① 保護者アンケートへの回答率 →84.9% ②時間外勤務時間45hを超える教職員 →0人	4	4	4	① ホームページの更新をこまめに行い、更新を行った際にはメール配信等で知らせていく。また、文量等にとらわれず、子どもの学び姿が見える通信を各学級・学年で工夫して発信していく。 ② 学校組織運営や校務分掌等の内容や担当の見直しで、業務内容の整理を行う。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。